Japan Translation Federation

日本翻訳ジャーナル

社団法人日本翻訳連盟機関誌　2010年3月/4月号

ー CONTENTS ー

Report
台湾の翻訳市場 1
経営者の声 2
現場の声 3
翻訳者の声 4
中国語・韓国語：三十年間の奮闘記？ 5
25年の翻訳体験から語り伝えたいこと 6

Honrenso
ほんれんそう No.144 8

Information
翻訳環境研究会報告 10
西日本セミナー報告 12
法人会員プロフィール 14
個人会員プロフィール 15
JTFニューフェイス 16
事務局だより 17

社団法人日本翻訳連盟
〒104-0032
東京都中央区八丁堀2-8-1 牧野ビル3F
TEL ■ 03-3555-6365
FAX ■ 03-3552-1784
発行人■東 郁男（会長）
編集人■野上 員生
E-mail ■ info@jtf.jp
URL ■ http://www.jtf.jp/

台湾の翻訳市場

村井 見栄子　ミエマネージメントサービス（米耶管理有限公司）総経理

台湾は人口およそ2300万人、日本の九州ほどの大きさで、翻訳会社として登記している法人が70社（弊社調べ：2010年1月21日）、また台北市翻訳商業同業公会という同業組合には、約50社が加入しています。台湾の翻訳業界でもここ数年、TRADOSなどの支援ツールを導入し、品質と作業時間をバランスよく高めようとする傾向が強まっていますが、ここで生活していると、そうした動きの何倍もの速さで広がる地下活動、翻訳のクラウドソーシングに触れる機会の方がずっと多いことに気が付きます。

例えば中国語環境のOSでYouTubeにアクセスすれば、ごく最近の日本のテレビ番組や新譜の邦楽などを中国語字幕付きで楽しむことができます。日々アップロードされる新しいコンテンツの多さには舌を巻きます。これらはもちろん、不特定人物によるボランティアの翻訳活動によるものです。信頼性よりもスピードやアミューズメント性が重視されるポップカルチャーの翻訳には、こうしたコミュニティ翻訳という形態が非常に歓迎されていることがわかります。もちろん台湾でも著作権を無視して翻訳したものを商品化して利益を得れば違法です。しかし自分たちが趣味として仲間と楽しむだけならば、どこからが違法となるのか線引きは難しく、またこうした地下活動のおかげでオリジナルカルチャーの人気が海を越えて世界的に高まっているのも事実でしょう。

翻訳サービスの料金については、物価の差に準じた形で台湾は日本の6～7掛けが相場のようですが、昨今の不景気や前述のコミュニティ翻訳の台頭などによって、厳しい価格競争が続いています。翻訳会社によってはコスト削減のために、翻訳者に原稿をまる投げし、あがった原稿をそのまま納品するというところも多く見られます。元々台湾の翻訳業界では「チェック」という概念があまり浸透していない上に、発注者から徹底的に翻訳料金を叩かれてしまうため、会社としても利益をあげ経営を続けていくためにはやむを得ないのかもしれません。また逆に高い代価を支払ってでも、翻訳の品質を追及したいというソースクライアントも少なく、翻訳会社の役割はいわゆるソースクライアントと翻訳者のマッチングを行うだけという感が拭えません。

ところで、新しいアイデアが生まれたときに、よく使われる「先做再説」という中国語の言葉があります。「とりあえずやってみて、ダメならそのとき、また考えればいい」という意味ですが、これに代表されるように台湾は実にフットワークが軽く、なんでもすぐに取り入れて楽しんでしまうという文化があります。翻訳というジャンルに限って言えば先のコミュニティ翻訳然りですが、合法なものでも例えばNHKの紅白歌合戦は2日後には中国語字幕入りで民放で放送され、小説の新刊も数ヶ月と経たないうちに中国語訳本が書店に並んでいるという具合です。もちろん地下活動の動きがよりオンタイムで、よりスピーディーなものであることは言うまでもありません。

台北の翻訳会社として、台湾のフットワークの軽さに学びながら、日本のきめ細かさを忘れることなく、これからも翻訳を必要とする人や企業に求められ、喜ばれる翻訳の形を模索し続けて参ります。

http://www.miemanagement.com.tw/jp/

【経営者の声】「多言語によるコミュニケーション」へのこだわり

内山 孝夫　C&M リレーションズ（株）代表取締役社長

私たちC&Mリレーションズは、「Communication」「Creative」「Management」という3つの事業領域において、社会活動のなかで“人と人が関与する業務”に特化した事業を推進する企業です。お客様が必要とする4M（Mission, Management, Marketing, Method）において、金融・法務・CSR・IR・PR・CS・ESの業務領域で発生する課題を、当社の4C精神（Create, Communicate, Change, Challenge）の力を持って解決することを目指し、この社名を冠しました。また、3つの事業領域の「Communication」は、人と人・人と社会・人と企業・人と国家、さらには社会と社会・企業と企業・国家と国家を対象にしたコミュニケーション支援事業を、「Creative」は、Communicationに関連するモノを創造するスキルによって形のあるものを提供する創造支援事業を、「Management」は、顧客企業に財務・IR・マーケティング・人事における専門知識を提供する企業価値向上支援事業を表しています。

具体的には、24時間365日6ヶ国語の同時通訳サービスを展開する「多言語コンタクトセンター事業」、金融・法務・技術（機械）・IT分野を中心に幅広い領域の翻訳を質の高い対応で提供する「翻訳事業」、上場企業あるいは今後上場を検討している企業のIR活動を支援する「IR事業」といった3つの事業を行っています。

これらの事業で求められる専門知識はそれぞれ異なるのですが、それらの専門性を追及しながらも、各々の事業に共通している「言語」という領域にとくに注力し、さらなる強みと特徴を発揮できる企業へと発展させていきたいと考えています。

ところで、現在、世間では不況が叫ばれ、実際、当社でもいろいろ厳しい話もあります。しかし、ITの発達をはじめ、国としても「観光立国」の実現を掲げ、自治体でもオリンピックやワールドカップの招致に力を入れたり、また、現時点ではどのような結果になるかはわかりませんが「外国人の参政権」について話し合われるなど、この日本においても、ますます世界のボーダレス化は進んでいくと思われます。結果、国という存在でさえ、世界のなかで単独で存在することがこれまで以上に難しくなっていくと思われますが、その反面、「お互いを尊重し合う」ことさえうまくできれば、いまより豊かな生活を実現できる世の中となっていくと考えられます。実際、当社も、全従業員のうち日本国籍以外の社員が3分の1以上を占めるボーダレスの“多国籍企業”で、習慣、言語、思想の異なる人間の集まりですが、それぞれがそれぞれを尊重し合い、協調することで、“多国籍企業”であること自体を、企業としての強みとしております。

現在、当社でそれが一番顕著に現れているのが「多言語コンタクトセンター事業」です。さまざまな国から、いろいろな言語を話す人々が来日している昨今。当社では英語だけにとどまらず北京語・韓国語・ポルトガル語・スペイン語など「多言語」にこだわり、365日・24時間、電話受付や電話通訳の対応を行っています。対応する当社スタッフの約半数は外国人の正社員で、国籍は、中国・韓国・米国・オーストラリア・ブラジル・ポルトガル・インドなど多岐にわたっており、これが、当社サービスをご利用していただく方々にとっても重宝されているようです。

ありがたいことに、サービスの提供先も、これまではメーカーなどのカスタマーセンターのコールセンター業務などがメインでしたが、最近では、国内で生活する外国人の方々が増えてきたこともあり、聖路加国際病院などの医療機関や、東京ガス株式会社、交通機関をはじめとする公共機関、不動産関係や観光分野関係の企業など、より生活に密着している機関・企業からの業務依頼が増えてきております。

これからも、当社では「多言語によるコミュニケーション」という部分にこだわり、社員一同、高品質なサービス提供を心がけていこうと考えております。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

http://www.cm-relations.com/

【プロフィール】

1971年生まれ。会計事務所にて、税務、財務、会計の業務を中心に、主に中小企業のアドバイザリー業務を担当、会計監査の補助業務なども経験。会計事務所副所長を経て現職。

特許和英翻訳講座 基礎編
2010年4月7日（水）スタート!

概　要
この特許翻訳講座は知的財産専門の翻訳会社である（株）知財翻訳研究所が、人材開発の観点から、その30年以上にわたる業務を通じて蓄積したノウハウをもとに、特許翻訳の最新情報と指針を提供するものです。特許翻訳に興味をお持ちの皆様に、特許翻訳の学習の第一歩となる基礎的な事項を体系的に解説します。この講座を受講することにより、その後の学習の効果が飛躍的に高まります。特許翻訳の基礎を系統的に学習する講座として、初心者からプロ翻訳者の方々にも役立つ内容です。本講座は和英翻訳を主眼としています。
［講師記］

■対　象■ 特許翻訳について知りたい方、学習したい方、特許翻訳者になりたい方、特許分野への転向をお考えの方などの、特許翻訳初心者
■講　師■ 浜口　宗武
・(株)知財翻訳研究所　社長　・元(社)日本翻訳連盟常務理事
・現在(社)工業英語協会理事　・NPO NIPTA常務理事
弁理士会継続研修認定申請中
■日　時■ '10年4／7～5／12の5連続水曜日(全5回※5／5を除く)18:30-21:10 ※休憩含む
■参加費■ お一人様　42,000円　※消費税・テキスト代含む　■定　員■ 30名※原則先着順
■会　場■ (株)知財翻訳研究所 分室(東京都新宿区新宿1-1-8　御苑高木ビル6F)
■交　通■ 東京メトロ丸ノ内線『新宿御苑前』駅　大木戸門口下車　徒歩3分

申込方法
参加申込は、www.chizai.jpより送信フォームをご利用ください。または、右記のe-mailかFAX宛てに次の項目および件名に「参加申込」と明記の上、お送りください。
1：お名前　2：お勤め先（請求書宛名）　3：ご住所　4：TEL、FAX　5：e-mail
6：本セミナー内容に関連するご経験や語学力、講師への質問など　7：申し込みセミナー名

お問い合わせは下記まで!
知財アカデミー®事務局　■Web site: www.chizai.jp　■E-mail: academy@chizai.jp
株式会社 知財翻訳研究所　〒160-0022東京都新宿区新宿1-1-7コスモ新宿御苑ビル Tel: 03-3225-1931（代表） Fax: 03-3225-1933

【現場の声】派遣翻訳通訳者として働く魅力

今井 美智子　　クレエ(株) 人材事業部 キャリアアドバイザー

1975 年設立、東京青山に本社をおき、上海・サンフランシスコ支社との連携により企業の国際ビジネスサポートを行っております。社内にオーストラリア人、ロシア人などのグローバル人材や専属翻訳者を採用し、翻訳インターン制度や翻訳支援ツールの研修など、人材育成に力を入れています。

最近の派遣翻訳通訳者の特徴や動向

金融危機による仕事量減少の影響か、派遣とフリーランスの組み合わせで就業するケースが増えてきているように思われます。よって必然的にフリーランスレベルの、経験値の高い翻訳通訳者が派遣就業し、それによりクライアントの要求も高くなっている傾向があります。また、翻訳通訳学校を卒業しても、実務経験がないとなかなか業務につくことができないという相談も多く受けます。

派遣就業のメリット

フリーランスに比べ収入が安定し、会社の一員として就業でき、やりがいを感じている方も多いようです。弊社から派遣就業した方でキャリアの長い方でもフリーランスへ転向せず、派遣先にて直接雇用となり、通訳翻訳チームのマネージャーとして活躍されている方もいます。

不況による影響と対策

金融危機以降、インハウス翻訳通訳の案件数が減っている状況です。また雇い止め等で優秀な翻訳通訳者でも仕事の機会を失う傾向があります。そのような優秀な方へ仕事の機会を提供できるよう、今まで派遣就業のみの経験しかない方へも、単発のフリーランスの仕事を紹介し、次のステップへ進めるようサポートしております。また翻訳支援ツールなどの研修を実施、スキルアップを支援し、クライアントのニーズにかなう人材育成に力を入れています。

ニーズの変化

クライアントの要求がより一層高まっています。例えば、「フリーランスレベルの翻訳（通訳）」で、というオーダーをいただくことも実際ありますし、「システム＋保険業界知識」「経営者レベルの会議通訳経験」「機材を使った同時通訳」「Trados 経験者」といった業界・専門知識、経験が求められるケースがあります。

派遣先で求められること

下記のことを意識すると、派遣先でより喜ばれる翻訳通訳者になれると思います。

①翻訳通訳の実力（常に関連分野に関心を持ち、調査力があること）
②チームの一員として仕事ができる（協力的で柔軟にすぐに対応できる）
③自主性がある（ゴールを把握し、それを達成できるよう自分から気づいて動くことができる）
④コミュニケーション能力（聞くことができる、信頼関係を構築できる）

キャリア向上のために

自分中心ではなく会社基軸で動くこと、会社へ貢献することが大切です。右から左に翻訳通訳するだけではなく、例えば営業資料の翻訳、商談通訳であれば、一緒に売るという姿勢が求められます。そこがインハウス翻訳通訳者として働く醍醐味でもあると思います。

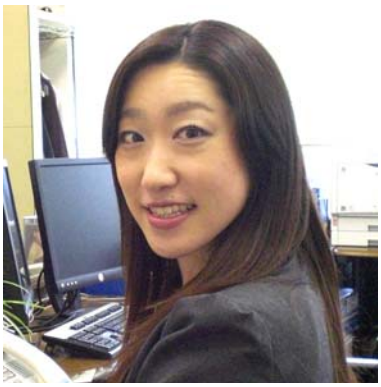
また、チャレンジ精神、前向きに最善を尽くすことも大切です。社内で「ちょっと通訳してほしいことがある」と突然頼まれることもあり、そういう時でも事前に準備のないことを恐れず仕事ができるくらいであってほしいです。急な仕事でもどんどんチャレンジするくらいだと、自分の成長にもつながりますし、周りから求められる通訳者になれると思います。

弊社の人材育成

弊社では、翻訳インターン生や帰国子女・海外留学生の受け入れを行い、翻訳会社の現場を体験し、弊社独自の育成プログラムに基づき、翻訳者としての就業ができるようサポートしております。実際に帰国子女の方で、弊社内でビジネススキルや翻訳スキルを身につけ、翻訳者として活躍されている方もおり、英語力の高さにクライアントから高い評価を得ています。

就業先で喜んでいただけるようなプロフェッショナリズムを持った人材になるよう学べる場を提供し、自分の成長がわかり、幸せな仕事人になれるよう、応援をしています。

http://www.creer-jp.com/



HC Quality makes a job
在宅医薬翻訳者 募集中！

分野：　医薬（治験翻訳、論文翻訳など）
言語：　英文和訳 / 和文英訳
応募条件：　医薬翻訳の実務経験が 3 年以上の方
CTD 翻訳の経験があれば尚可
＜応募方法＞
履歴書・職務経歴書（過去実績）を E メールで
medical@translatejapan.com までご送付下さい。
株式会社 ホンヤク社
http://www.translatejapan.com/

【翻訳者の声】翻訳会社からフリーランス翻訳者へ――1つのキャリアパス

高橋 聡（あきら）　JTF 個人会員、IT 翻訳者

翻訳を軸にして言うと、私はこれまで（1）副業時代→（2）本業時代：翻訳会社勤務→（3）本業時代：在宅フリー、というパスをたどってきたことになります。もともと自由業志向があったので、その点については幸運に恵まれたと言えるかもしれません。言語は一貫してほぼ英和100%。出身は文系ですが、気づいてみれば「専門はIT」ということになっていました。

私自身がそうだったように、翻訳会社勤務の経験を経てフリーランスになるというのは、理想型というほどではないにしても、翻訳者を志望する方にとっても分かりやすいキャリアパスであることは確かでしょう（私の場合、必ずしも主体的な選択の結果とは言えないのですが……）。勤務時代とフリーランス時代で分野がまったく違ってしまうなら話は別ですが、同じ分野であれば業務に伴って各分野固有の知識と技術を身につけることができる、いわば十分なOJT期間を経て独り立ちするようなものだからです（実際、私がいた会社では在宅フリーランス希望の応募者に対しても、翻訳支援ツールのトレーニングを兼ねた数か月間のオンサイト勤務を打診していました）。

特に、私が専門としているIT翻訳、なかでもローカリゼーション翻訳の場合には、翻訳会社で経験を積むことが大きなプラスになります。なぜかと言うと、翻訳はあくまでもローカリゼーションプロセスの一部なので、他の分野以上に翻訳前や翻訳後の工程に関する知識や経験を持っていることが有利だからです。翻訳会社の立場から言えば、いろいろなファイル形式やツールに対応できるうえに、翻訳後のプロセスも理解してターゲットファイルを処理してくれる翻訳者のほうが重宝するということです。社内でローカリゼーション業務に携わっていれば、そういう面での知識と経験を得られるうえに、多くの場合は翻訳だけでなく外部翻訳者の訳文のQA（訳文チェック）も担当することになります。人の訳文を直す作業というのも、（少なくともある段階には）自分の翻訳技術向上に役立ちます。

そしてもうひとつ、クライアント企業のことを知る機会があるという点も重要かもしれません。在宅翻訳者として翻訳会社と取引しているだけではクライアントと接することはほぼありえませんが、翻訳会社にいればクライアント企業の担当者と直接会って、あるいはフィードバックを通じてクライアントがどんな納品物を求めているか直接体験として知ることができます。その意向を自分の翻訳作業や納品に活かすことができれば、それは一定度の付加価値になります。たとえば、私は納品時に添付するコメントの内容を単なる報告ではなく、なるべく提案型になるよう心がけていますが、それも勤務時代に何社かのクライアント担当者がそういうコミュニケーションを希望していたことを知っていたからです。

そうした経緯があるので、今でも受注量の大半は元の勤務先からのものです。もちろん、フリーになってからは他社のトライアルも受け、現在は複数社と取引がありますが、そこでも翻訳会社勤務というバックグラウンドとローカリゼーションに関するノウハウは有利にはたらいたようです。新規取引のときにこうした自分の価値を積極的に売り込むことが「営業努力」と言えば言えるのですが、フリーになって2年目からは、積極的に「人と会う」ことを意識していて、どちらかと言えばそれが小さいながら「営業」につながっていると最近は考えるようになりました。翻訳フォーラムや翻訳者の勉強会などにはできるだけ参加するようにしていますし、JTFに会員登録したのもその一環と言えます。実際、昨年の翻訳祭では以前の取引先担当者さんとの再会がいくつもありました。

IT翻訳は、翻訳対象と道具が比較的近い位置にあるという特異性があり、実際の作業でも各種のツールを活用する場面が多くなりますが、そういう「翻訳以外の処理、ツール類の扱い」が性に合っていたことも私の場合は幸いしたようです。「ITを扱う翻訳者」というだけでなく「ITを使いこなす翻訳者」という意味もこめて「IT翻訳者」を名乗っていきたいと思っています。

【プロフィール】

翻訳で初めて報酬を得たのはMacより以前、Apple II全盛の時代（80年代前半）。その後、学習塾の教師を10数年続けながら、副業としてコンピュータ関連と環境法・環境経済の翻訳に携わる。1998年に翻訳会社に入社し、ローカリゼーション部門の社内翻訳者として翻訳・QA業務に従事。必然的に各種ツールに詳しくなり、今でも翻訳作業の半分以上をTradosとIdiomが占める。その経験を活かすべく、Trados等に関する情報をブログにて公開中（http://baldhatter.txt-nifty.com/trados/）。ちなみに、在宅翻訳者になったきっかけは会社の健康診断でやや大きい病気が見つかったこと。皆様くれぐれもご自愛を。

中国語・韓国語：三十年間の奮闘記？

加古 滋　（株）リーガルインターナショナル 代表取締役

最初に、難しいことは一切分からない平凡な初老人の手記としてお読みくださることをお願いいたします。

五年前、「この部位は危険で手術が出来ない、激痛発生時には坐薬または医療用麻薬で対処してください。」・・・・顔、真っ青！

そして一昨年の６月「心臓冠動脈の２本が99％梗塞しており、三ヶ月以内に確実に最悪の事態になる、数日中に開胸手術を行わなければ年内の命の保障はできません。」・・・・頭、真っ白！

胸椎間板狭窄症と心筋梗塞と言う厄介な病魔に突然取り付かれ、仕事を横目で見ざるを得ない状況で過ごしたここ数年。いま、ようやく現場に復帰する気力が戻りつつあります。・・・・でも気が付いたら今年で還暦。

私なりに、この業界の中での自分を取り巻く出来事や、厚かましくも将来の会社発展に備えるべく諸々整理しようとしていた矢先にお声をかけていただきました。「中国語・韓国語：三十年の奮闘記」なる文章を書けと。（穴があったら入りたい思いで続けます）

確かに私は、この二言語だけで三十年、ただ黙々と翻訳のみに携わってきました。しかし言語が何であれ、言い換えれば、仕事そのものが何であれ、私は人との係わりが好きなだけで、実は翻訳とは何たるかも知らずに業界に飛び込んだ次第です。事実、“キムチ製造業”なるものを真剣に考えていた時期もありました。（ついでに“熱帯魚屋”も・・・・）

不謹慎に聞こえるかも知れませんが、どの業界の仕事も実に単純明快で、“お客様に満足さえしていただければそれでOK”と考えています。OKとなれない人物はどの業界でも駄目坊～です！

曰く、仕事は神聖なものであることに疑う余地はないものの、所詮、生きるための一つの手段にしか過ぎません。それより、どう生きるかが大切だと考えます。

結果的に、この仕事を継続できたのは、翻訳業界に携わっておられる方々は「人としての質」が良く、失礼ながら一風変わった方が多いように見受けます。私はきっと、その「変わった」と言う一面に惚れ込んでしまったのでしょう。

従って、常に私は「願わくば、来世も同じ仕事を同じ仲間達としたい。出来れば同じ家庭を持ちつつ・・・・」と語って恥じません。

せっかくお与え下さった題材である「中国語・韓国語：三十年の奮闘記」など、私には到底書く資格も能力もなく、とにかく私を周囲で支えて下さる方達と何をしていても新鮮で楽しく、そして「一風変わった」人達と触れ合うのが心地良くてたまらなかった。お客様は勿論、翻訳者さん達とも原稿は直接全て会って“目を見ての手渡し”、真冬の雨の中、オートバイでのデリバリー（これは実にキツイ！）、徹夜続きの版下作業や子供の貯金まで使い果たしてのお支払い。更には翻訳者さんの離婚騒動の立会いまで・・・・。土日休日など無く、真夜中まで全力で走り続けてきたことに対し、いま何を思い出しても「過去の真っ赤な血や脂ぎった汗」は「キラキラとした薔薇色や澄んだ雫」に思えてしまいます。

あえて言う私の奮闘記とは、６階のお客様でエレベータが無かったことだけ！

現在、翻訳業界のみならず、全ての業界・企業が苦しい経営を強いられていると自らも強く感じます。しかし、これも数年も経てば、「薔薇色」とまでいかなくとも、きっと笑い話の一つとして、「あの頃は実に厳しかったな～」とジョッキ片手に笑顔で話せるようになることでしょう。つまり、生きていること自体が既に皆の「オリジナル奮闘記」だと思うのです。

過去、業界ではマイナーであった「中国語・韓国語」も今やメジャー言語となり、少々、商売道の義理を欠いた醜さまでをも感じる競争の真っ只中にあります。正直、アナログ大好きオヤジの私にとっての本当の奮闘記は正にこれからだと覚悟しています。今のメリハリのない退屈な時代から、もう一度ギラギラとした毎日が送れるようになりたいものです。（・・・・本当は早く引退して女房と遊びたい！）

最後に少々真面目に思うところ、未だ日本はアジア諸国と正対していないように感じます。つまり、“いつでも引ける半身の状態”に構えている。これは過去、企業訪問をしていた時も、現在の翻訳原稿の出方を見ていても強く感じます（具体的に語るには数日要します）。勿論、その日本の姿は相手側もとっくに読み取っています。

あえて奮闘記と言うのであれば、どの業界にも同様にある“営業”での苦労だと思いますが、来世も・・・・等と思う私は、この業界に居ることを誇りに思い、“デリケートな言語”を扱ってこれたことを感謝と共に業界に恩返ししたい思いです。

業界あげて“100円ショップ化”にならないことを祈りつつ・・・・。

25年の翻訳体験から語り伝えたいこと

吉川 潔　JTF 個人会員

早いもので、新潟の田舎で翻訳を始めてから25年すぎた。その間に様々なことがあった。特に、6年前に新潟県を襲った豪雨と地震で大きな被害を受けたが、立ち直ることができた。翻訳の合間を見て、復旧活動を担っていたら、昨春「紺綬褒章」を受章した。これは、翻訳業界の皆様の支援のおかげと感謝している。

思えば昭和58年、脱サラして在宅翻訳を考えて私は、当時から日本を代表するエージェントであった翻訳会社を訪ねた。業務の大半を占める技術資料を15人の文系翻訳者が常駐して訳しているので、理系は歓迎するが、在宅は無理といわれた。

昭和61年9月、縁あって、IBS社（杉並区高円寺）を訪問した。15台のパソコンがあり、常駐翻訳者が借用して翻訳していた。桜井社長から、電子メールで翻訳原稿を送受信する翻訳ネットワークを全国的に構築したい、1号にと請われて開始した。

上記のエージェントや他の数社に、在宅翻訳を始めるので宜しくと電話で伝えたら、今は景気が悪いから、止めたらという返事だった。しかし、今さら後に引けない。11月にIBS社を再訪し、初仕事として和訳用の原稿を受け取った。

その後、雑誌「工業英語」を出版しているインタープレス社に赴いたが、ストライキ中で立入禁止。ピケを張っている社員に「訪問は予約済み、内部と交渉して」と頼んだ。許可されて社内で物色し、「25万語科学技術用語辞典」などを購入した。スト中の社員に一礼して帰ったが、これから始まる翻訳稼業に漂う暗雲を感じて不安になった。その後、同社は倒産し、書籍の出版権は丸善に移り、「35万語～」、「45万語～」が出版になり、多くの翻訳者が愛用しているであろう。藤岡社長とは、翌年「中野サンプラザ」で催されたIBS社の新年会で会った記憶がある。同氏は、後に工業調査会から書籍を出版され、私は懐かしさで購入したが、水害で流出した。藤岡さん、お元気でしょうか？

翌年4月、IBS社の翻訳ネットワークには、全国から20人以上も加入していた。同社は八王子市に移転し、桜井社長は自動翻訳の実用化にも挑んだ。

桜井社長は今流の「クラウド」の構想を持っていた。同社が核となる翻訳ソフトを備え、希望者が同社の翻訳網を介して利用するという構想だった。ソフト会社や翻訳会社が様子見に見学していた。同社はこの積極策が裏目になり倒産してしまったが、在宅翻訳を可能にする翻訳網の構築に桜井社長が残した多大な功績は賞賛に値する。

こういう状況下で、私は必死に営業した。同年7月に、（株）知財翻訳研究所を訪問したが、希望を叶えなかった。7年後の4月末に、同社から大量の特許和訳の依頼を受けた。しかし、パソコンが急に故障した。販売店に相談したら、修理はゴールデンウイーク後になるといわれた。翌日、30万円と共に上京し、秋葉原でパソコンを購入した。帰宅したら大量の原稿が届いていた。連休中に翻訳を終えた。同社から、緊急で連休中に頑張ってくれたと3割アップの翻訳料を頂き、パソコン購入費は短期に回収できた。いま、同社が日本を代表する翻訳会社であることは、誰もが周知のことである。

30万と共に上京する時は不安だったが、同社のほうこそ、吉川に任せて大丈夫かなと不安に感じていると自らに言い聞かせた。以来、電話回線を介する翻訳で生き抜くには、相互の「信頼と気合い」が重要と肝に銘じている。

当時、日本はバブルの絶頂期、コンピュータの取扱説明書の和訳を中心に仕事量も増えた。ところが、文法的に正確だが、堅苦しくて取説用の和訳には使えないと拒絶された。

某特許事務所から呼び出しがあり訪問した。ある翻訳者に高額で依頼しているが、単価の値上げを要求するので困った、指導するから代役にといわれた。特許英訳は不安だったが、喜び勇んで指導を受けた。月に2回ほど上京し、前回のミスの指摘を受け、次回原稿を受け取り、帰宅後に英訳に励むということが暫く続いた。捨てる神もあれば拾う神もあり。営業活動のおかげである。これが転機になり、特許英訳が主体になり、仕事量も安定して増加した。

時には、支払いでトラブルが、特に初期に生じた。一方的に相手が悪いのでなく、私にも不備があり社会勉強と諦めた。相手の責任と感じた2件は、インテリヤクザが暇つぶしで翻訳という態度で一喝したら、共に全てを支払ってくれた。

ある冬、神田駅近くの㈱翻訳センターから特許翻訳の依頼を受け応じた。更に、

実務に直結! 産業翻訳講座・セミナー 多数開講中!
サン・フレア アカデミーで
翻訳のエキスパートを目指しませんか？
〈人・夢・ことば〉で世界をつなぐ
サン・フレアアカデミー
SunFlare
〒160-0023 東京都新宿区西新宿 1-13-12 西新宿昭和ビル 4F
TEL：03-6302-3391　FAX：03-6302-3393
E-mail:academy@sunflare.co.jp　http://www.sunflare.com/academy/
◎セミナー情報…3月に「短編小説の翻訳」や「英訳のポイントを学ぶ」、4月に「医学論文翻訳」などを実施します!

3月末に緊急の依頼を受けたが、多忙で断った。10分後に、同社の名古屋から緊急依頼を受けた。共に女性社員だったが、電話の言葉からうける迫力は凄まじく、インテリヤクザが吹き飛ぶほどだった。勇将の下に弱卒無し、猛女あり――

同社は大発展し、汐留に本拠を構え、社長はJTFの会長を兼ね、業界をリードされていることは、我々、翻訳者一同も非常に心強いことである。

●自動翻訳ソフト

前述のように、IBS社は自動翻訳ソフトの実用化に協力していた。そこで、各社が試訳を依頼した。20数年前に、モルモット役を私が仰せつかった。当時と比べると、いまの翻訳ソフトは進歩しているが、真の実用化には今一歩である。

私は、数社のソフトを試訳し結果を関係者に報告している。短文は、ほぼ正確に訳せるが、数量表現が苦手である。

電子図書が普及すると、世界の書籍が様々なルート（例えば、インターネット）から入手できる。文字を音声に変換すれば、視覚障害者でも読書可能になる。翻訳の要望も増える。仲介役を翻訳ソフトが担い、正式な正確な安価な翻訳の依頼が翻訳業界に殺到すると夢想している。こういう楽天家なので、新潟の田舎で翻訳を続けることができるのかも知れない。

●得意とする翻訳分野の充実

入試問題にミスがあると大騒ぎになる。入試はミスが無いことを前提にしているが、翻訳者が受け取る原稿にはミスが多い。例えば、英訳で

（a）「これはヘンです」の「へん」は、(ペン）のミスプリント？、(変)、(辺）であるかについて、原文の前後から，判断して訳さなければならない。

（b）「増幅器が増幅できる周波数帯域が、この分野で用いられている。」の英訳時に、電気知識のある翻訳者は、「増幅器が○○を増幅できる周波数帯域が、～」と意訳する。周波数帯域自体が増幅器で増減することは考えられないからである。この程度の欠陥が原文にあっても、特許庁の電気部門の審査官が審査するので、新規性があれば合格する。しかし、海外出願用に英訳する際に困る。

このように、翻訳原稿には、ワープロの誤変換、民族性の違いによる曖昧な表現、専門家同士なら阿吽の呼吸で理解し合える不備な文章が多い。修正しながら翻訳する能力、即ち、豊かな背景知識を有しているかが勝負になる。医薬や自動車会社の直系の翻訳会社のトライアルには「原文にミスが幾つかある、指摘し訂正して訳せ」という問題がある。生半可の知識では気がつかない内容である。

時々上京し、東京ビッグサイトや幕張メッセで催される展示会、例えば、東京モーターショーを見学し新知識の取得に努めた。パソコン講習会や新聞の経済欄や科学欄も勉強になる。翻訳支援ツールが進歩しており、特にグーグルの活用如何が勝負になる。最新技術が詰め込まれているパソコンの内部を調べると、翻訳に必要な背景知識が豊富になる。パソコンの進歩につられて翻訳技能も向上する。一つ一つの効能は僅かだが、積み重ねは大きく、翻訳作業に役立っている。

●翻訳単価について

翻訳単価が安いと不満な人が多い。単価は、需要（依頼者）と供給（翻訳者）の関係で決まるのが経済学の原則である。安くても、我慢不能な限界はない。翻訳の製造原価はゼロに等しいからである。人件費（生活費）が稼げれば十分である。

いま、団塊の世代が続々と定年退職し、再就職の希望も多い。豊富な実務経験を持つ翻訳に適した人も多い。年金受給者ならば低単価で引き受ける可能性がある。専門知識の豊富な主婦も子供手当に期待して、低単価で頑張るだろう。地方在住の働き盛りも、自然に恵まれているので、低単価で大量受注し、長時間働いて収入増を目指せる。東京周辺の翻訳者も、その気になって、創意工夫すれば、同様に収入増に直結する。

例えば、医薬品の翻訳は、医薬系の翻訳者は短時間で訳せる。従って、低単価でも、翻訳量が多ければ、単位時間あたりの稼ぎは増える。将来、翻訳業界に依頼が多くなると見込まれる有望な分野を対象として、集中的な受注を試みるべきである。もちろん、そのための常日頃の学習も必須である。

翻訳会社は、低単価で頑張る優秀な資質の翻訳者を発掘して、優先的に仕事を配布し育てて欲しい。低単価に相応した安い翻訳料金を顧客に提示すれば、高いために回避していた顧客からの翻訳依頼の増加も期待できる。

翻訳会社の社員と其の先にいる顧客は長時間通勤で働いている。在宅翻訳者は、このことを片時も忘れずに、謙虚に低単価で翻訳品質の向上に努めることにより、共感を得て長続きできるのである。

25年間、翻訳業界の皆様には、ほんとうに御世話になりました。新潟県を襲った水害や地震の際に、全国から義援金やボランティアの支援を受けたことに改めて御礼申し上げます。私は、後期高齢者になっても翻訳を続けたいので、今後も宜しく御願い申し上げます。

ほんれんそう No.144

英語漫筆（22）憚り詞（2）　山崎 義昭　翻訳者

憚り詞（２）

容姿を言う憚り詞

自動車由来の詞を用いて、とくに女性の姿のよさを表わす表現に chassis と言う言葉があります。“She had a classy chassis.”また、“She is well endowed.”も婉曲な誉め言葉です。しかし、これには“sexually fulsome, large-breasted”などの意味も含まれていますので、状況によっては「憚り詞」の役目をつとめないことがあります。また、体の部位名のみで「太り気味」、「痩せ気味」を表わすことがあります。

He hadn’t given her much thought, other than wondering why a woman with her body was wearing drawstring trousers that served only to emphasize the absence of **a waist**.
「あの体形の女性がどうしていつも紐付きのズボンなんか履いているんだろう。あれじゃまるでずん胴を見てくれと言わんばかりじゃないか」

“Well, Swithin,” she said, “I haven’t seen you for ages. How are you! Why, my dear boy, how stout you’re getting?”
The fixity of Swithin’s eye alone betrayed emotion. A dumb and grumbling anger swelled his bosom. It was vulgar to be stout, to talk of being stout; he had a chest, nothing more.
「デブは下品だ、他人をデブと言うのも下品だ。彼はだだ胸が出ているだけだ」

“You’re much thinner than you were three months ago,” Sybil assured her.
“I’m really not,” said Mrs. Fellows-Brown, “though I must say I look it in this. There’s something about that way you cut it, it really does minimize my behind. I almost look as though I hadn’t got one—I mean only the usual kind that most people have.” She sighed and gingerly smoothed the troublesome portion of her anatomy. “It’s always been a bit of a trial to me,” she said. “Of course, for years I could pull it in, you know, by sticking out **my front**. Well, I can’t do that any longer because I’ve got a stomach now as well as **a behind**.
「勿論、何年もおなかを突き出すようにすればお尻は引っ込められたの。でも、もうだめ。お尻だけじゃなくおなかまで出てきてはもうだめよ」

また、「太鼓腹」(potbelly, pod) を corpulent の連想から corporation ということがあります。

“You’d be surprised,” said Stanley, as though this were intensely interesting, “at the number of chaps at the club who have got **a corporation**.

排泄を言う憚り詞

「排尿」に当たる英語は、urination, micturition ですが、日常会話で urinate, micturate はほとんど使われることはないと思われます。

これに当たる英語憚り詞 kind words として、日本でよく言われるものに answer the call of nature, answer Nature's call とか Nature calls me. というものがあります。

That small portion of time which the **calls of nature** obliged him to **pass in the necessary-house**.

necessary-house は単に a necessary とも言い、necessary stool, necessary bowl, necessary vault などとともに a privy を意味します。urinate の日常「憚り詞」として幼児も大人も make number one と言うようですが、これは sis-sis, cis-cis, pee-pee, wee-wee, piddle などと同じく幼児語に由来するものです。その他、make water, take a leak, do one’s business, do a job for oneself, easy oneself, give oneself ease, relieve oneself, commit the nuisance などがあります。

Stubberd, with a suppressed gaze of victorious rectitude at the old woman, continued: ’Was standing myself. She was wamblinlg about quite dangerous to the thoroughfare, and when I approached to draw near she **committed the nuisance**, and insulted me.”

「出物腫物所嫌わず」のごくくだけた英語の表現は、When you gotta go you gotta go. でしょう。これを憚り詞 kind words で表現しますと、以下のようになります。

We simply cannot permit folks to **perform bodily functions** anywhere they please. If urinating is OK, next comes the other thing and who needs that?

A cold wind ruffled the straw of the yard, and a man went modestly behind a barn to **relieve himself**.

There was a suggestion at the inquest that he sought to **relieve himself out of the window** rather than trudge down to the jakes in the basement, a distressing but no unprecedented recourse for chaps well gone in their cups.
「地階の便所までとぼとぼ降りていくよりはいっそ窓から済まそうとしたのではないかという推測が査問会でなされた。窮余の策とはいえ気が引ける所業だが、したたか飲んでいる若者の間では前例のないことではなかった」

“She was holding Little Catherine. Little Catharine was like a doll, only she was heavy, and a doll never **wets** her diapers like Little Catharine did. You could hold a doll forever, and never be **wet from number one**.
「重たくなければキャサリンちゃんはまるでお人形さんだ。でも、お人形さんはキャサリンチャンと違ってオムツを濡らさない。人形だったらいつまでだいていてもオシッコで濡らされる

ことはない」

"I want to **go to the pot** and **make number one**," Catherine said. "You are big enough to do that for yourself," Liz said.

pot は necessary bowl のことで、piss-pot とも言います。When you gotta go you gotta go. 式の人が多い所では、Commit No Nuisance.「小便無用」の張紙が必要となります。

「小」が number one（Number One とも綴ります）で、「大」は number two です。

"Mama, Dennis is bad. He **did number two** in his pants."

また、genital organ を意味する business という語が「排泄」をも意味します。

I have a lovely yard and no dogs. My neighbor has two dogs who **do their business** regularly on my lawn. Whenever I do yard work, I step in it.

Number two の幼児語としては poo-poo, boom-boom. ca-ca, grunt, mess, BM（bowel movement の acronym）などがあり、I've done poo-poo. などとして使われます。

「排泄」の表現は、スラングを加えますと枚挙に暇がありませんが、なかでも urination の終わりを shake the dew off the lily と言ったり、女性は、visit the privy を pluck a rose と言うなど、まさに kind words というにふさわしい表現もみられます。幼児に尿意を問う表現に、look at the crops とか、幼児に排泄を促す表現に、make little soldiers などがあります。

ところで、現在のような高齢化社会になりますと、幼児のみでなく高齢者についても排泄に関する表現がいろいろ出てくるものと思われます。いわゆる「お漏らし」は、一般に urgency, incontinence などと言いますが、accident とも言い、have a toilet accident という言い方が和英辞書にも出ています。欧米の日常会話では次のように言っています。

I am caused by a problem I know many woman have. I **lose my water** at the most disturbing and embarrassing times.

一方、最近の推理小説などでは、euphemisms, kind words などを用いると現実味や写実性を損なうためか have a slash, go for a slash など「卑語」そのものを使っています。

So it didn't matter he had to take the handcuffs off and lead her to the head and stand outside the door where he could hear her **peeing** behind it. There was no more embarrassment here than there'd been with the fat lady in her panties, he was just the Man here to settle this thing, the Man here to get her sober again. Wasn't anybody behind that door **pissing**, wasn't anybody outside here listening. The lady in here was invisible, and the Man outside here was anonymous.

You're expecting to be worshipped for something that takes as much talent as **having a crap or a pee**.
「糞か小便をひるぐらいが関の山でひとに誉めてもらえるとでも思ってるのか」

放屁

「放屁」についても色々な言い回しが用いられています。日本でよく知られている英語は、break wind ですが、欧米での一般語は a fart, to fart です。その他 backfire, a smell of gunpowder, SBD (silent but dangerous), let one fly, let fly a fart, a raspberry tart, the raspberry, the bird, a Bronx cheer, touch bone and whistle などがあります。

He was telling us all about what a swell guy he was, what a hot-shot and all, then all of a sudden this guy sitting in the row in front of me, Edgar Marslla, laid this terrific fart. It was a very crude thing to do, in chapel and all, but it was also quite amusing.

腹が下る

和英辞書では "have diarrhea," "have loose bowels" などですが、実際の日常英語は次のようです。

"She only been sick since this morning?" Bart asked.
"That's right," Benton said. "But she's been down on her milk for almost a month. I want her out'a here before my other cows **get the runs**."
「他の牛に腹下しが移らん内にこいつには出ていってもらわんとな」

"My mother always gave me chicken broth when I **had the runs**."
「お腹をこわすと決まって母はチッキンスープを作ってくれたわ」

男女の情愛についての憚り詞

I love my wife dearly and wouldn't hurt her for the world. She is a beautiful person, a wonderful mother and ideal helpmate, but she was always **uncomfortable with intimacy**, disinterested in sex, and I'm sure she would just as soon not be bothered.

浮気、不実

flirt, break faith with, betray, be disloyal, womanize などの表現が辞書に示されていますが、実際には次のような言い方が一般のようです。

He is 46 and has had a major heart attack. He never **ran around on me**.
He never **cheated on me**.

JTF 翻訳環境研究会報告

****
平成 21 年度第 7 回 JTF 翻訳環境研究会
平成 21 年 12 月 10 日（木）14:00 ～ 16:40
【開催場所】剛堂会館ビル
【テーマ】「IT 翻訳の現状と翻訳の未来」
【講師】河野 弘毅氏（ローカリゼーションスペシャリスト、tratool-jp (ML) 管理人）
****

昨年発生した不況以来、翻訳業界も暗い話題に事欠かない状況であるが、中でもフリー翻訳者にとって頭が痛いのが、翻訳単価の値下げだろう。不況の影響をあまり受けない医薬分野を除き、どの分野の翻訳者もこの問題に直面している。今回の研究会では、このような状況の中、これからも IT 翻訳を続ける意味、新たにこの業界に参入するにはどうするか、IT 翻訳の品質などについて、河野氏が様々な経験を踏まえて語った。

IT 翻訳の現状

・ソースクライアントの現状

経済危機への反応の仕方は「守る型」と「攻める型」があるようだ。守る型の場合、予定されていたローカライズプロジェクトがのきなみ延期される。攻める型の場合、戦略商品のローカライズは進めつつもコスト削減を徹底しようとする。

・翻訳会社の現状

予定プロジェクト延期 or 翻訳単価ダウン。どっちに転んでも翻訳会社は苦しい状況。

・翻訳者の現状

末端のフリーランス翻訳者は仕事があればよい方であり、単価はかつてなく下げられている。さらに、IT 翻訳に特徴的なのは、さらにここに MT(機械翻訳) や Trados に代表される TM(翻訳メモリ) ソフトウェアを利用することによる値下げである。

IT 翻訳では技術革新が市場を縮小させる

IT 翻訳は構造的に下請け産業であり、新技術はソースクライアントから言われるまま導入する場合がほとんどである。ソースクライアントにとっては「翻訳技術革新」＝「コストダウン新手法」であるため、翻訳会社が導入する技術は常に「自分の首を絞める技術」になる。仮に生産性を 2 倍に上げるツールができたら市場規模が 1/2 に縮むだけの話である。
このような状況で、翻訳会社が生き残れる戦略はあるのだろうか。

フリーランス IT 翻訳者の現状

今現在、フリーランス IT 翻訳では、家族を養えない状況である。社員になって安定収入を得たほうがずっと楽なのが現実である。

それでもフリーの IT 翻訳者としてやっていきたいのであれば、相当な覚悟が必要である。ただし、現在翻訳業界で求められている IT 翻訳者は、クリエイティブな翻訳家ではなく、言語がわかり、ツールも使いこなせる専門家である。ローカリゼーションの一工程を担う専門職と位置付けた方が良いだろう。

翻訳の品質（言語学的観点から）

翻訳の品質は、工業製品におけるネジの寸法の許容誤差のようには規定できない。その理由は言語という対象の特性にある。文明化された社会では、言語は話し言葉と書き言葉に分類される。言語学の用語に、ソシュールという言語学者が唱えた「ラング」と「パロール」がある。ラングとは、ある言語社会の成員が共有する音声・語彙・文法の規則の総体 (記号体系) である。パロールは、ラングが具体的に個人によって使用された実体である。書き言葉である翻訳の品質を評価するとき、人はその文章のパロールの正しさを自分の身体に問い合わせて検証する (言語身体性)。IT 翻訳では、この言語身体性と、情報格差により翻訳品質が決まる。情報格差とは、マニュアルの書き手である開発者から離れていくに従い技術情報が少なくなるという事情であり、書き手から離れたところにいる末端の翻訳者は最も情報量が少ないため、書き手が意図している内容を 100％反映することは難しい。

一方で、言語身体性は人により異なり、お金を出して翻訳を買うクライアントの身体性が価値の基準となる。自分の身体性に正直な言葉で訳文を思う存分展開したい翻訳者は、趣味で翻訳するか出版社に自分の力量を認めさせるしかない。

河野氏のお話しは、翻訳者や翻訳業界関係者にとって身近な内容に触れつつ、翻訳の本質や未来についての大きな示唆に富むもので、独特の語り口に皆引き込まれて聞いていた。ここに要約した内容は、当日の講演のほんの一部であるため、興味をもたれた方はこちらのウェブサイトを見るとより詳細な内容が載っているので参考にしてほしい。

http://smallmedia.jp

****
平成 21 年度第 8 回 JTF 翻訳環境研究会
平成 22 年 1 月 14 日（木）14:00 ～ 16:40
【開催場所】剛堂会館ビル
【テーマ】「医薬翻訳：クライアント満足度を高めるために翻訳会社・翻訳者がすべきこと」
【講師】村田 桂子氏（株式会社 MCL 代表取締役）、平井 由里子氏（同社 取締役）
****

不況に強いと言われる医薬翻訳業界であるが、この業界では何が起きているのか。現在の状況と今後の展望について、MCL 社長の村田氏と、同社のソフトウェア開発部門で指揮を取る平井氏が語った。

不況に強い医療翻訳

日本では 65 歳以上の高齢者人口の占める割合が年々上昇し、それに伴い医療を求める人の数は増える傾向にあり、医療が果たす役割も大きくなるだろう。医療は世界的に発展しており、最新情報はほとんど英語で発表されることから、今後、医療翻訳のニーズもますます高まる。

一口に医薬翻訳と言っても、製薬会社の新薬申請の文書から、医師が投稿する論文、医学書、公的機関の HP の医療情報、医療機器メーカーのマニュアルまで多岐にわたる。クライアントの満足を得るためには、しっかりと相手の状況を理解しニーズに応えていかなければならない。

製薬会社の新薬開発に関わる翻訳

新薬開発には莫大な予算と膨大な年月が必要である。基礎研究に 3 ～ 5 年、動物による非臨床試験に 2 ～ 3 年、人に対する臨床試験に 5 ～ 7 年を要する。そし

てそれらの結果がよければいよいよ申請となるが、申請にも 2 年程度の期間がかかる。

一方で、新薬の特許期間は 20 年（5 年の延長申請可）であるが、特許は新薬開発の最初の段階で申請するため、実際に市場で販売されてからは約 10~15 年で特許が切れる。

「2010 年問題」と呼ばれているが、大手製薬会社の主力医薬品がここ数年の間に次々と特許期間満了を迎える。特許が切れた後はジェネリック医薬品など安価な薬に市場を奪われてしまう可能性があるため、製薬会社では一日でも早く新薬を発売したいと考えている。

このような状況から、新薬申請に関わる翻訳はフォーマット、正確さ、そしてスピードが非常に重要となるが、翻訳料金を不当に下げられるということはまずない。製薬会社の要求レベルは高いが、それに応え信頼を勝ち得ることができたら、翻訳会社はそれなりの利益が見込める。

論文翻訳

医師不足と騒がれているが、日本の医師、特に大学病院の医師たちは本当に忙しく、論文を書く暇がない。そのため不十分な原文のまま、翻訳会社に英訳を依頼してくるケースもあるが、内容について確認しようにも電話で連絡が取れないことも多い。しかし、先生方の論文にかける想いは熱く、非常に高品質な翻訳が求められると同時に専門性も高い。このような状態で高品質な翻訳を仕上げるのは多大な労力がかかり、費用対効果は低い。しかしながら、医療翻訳を行ううえで、世界に日本の医療を紹介し、また海外の最新医療を日本の医療現場に伝えることができるという充実感と達成感は大きい。

クライアントのニーズに応えるために何ができるか

翻訳会社は、クライアントの要望をしっかりと翻訳者に伝えることが大事であり、参考情報や過去の対訳を提供するなど可能な限り翻訳者をバックアップすべきである。さらに薬の用量・用法などは決して間違いが許されない。そのため、同社は数字や単位記号、指定用語が正しく使われているかを機械的にチェックできるアプリケーションソフト CheckAlign を開発し、翻訳が医療事故につながらないように最新の注意を払っている。

医薬翻訳者に求められる資質

高い専門性と語学力が求められると同

時に文章の論理的展開ができることが重要である。単に翻訳を「言葉の置き換え」と捉えていたのでは、クライアントの真の満足は得られない。日頃から強い好奇心を持って物事に接することと、疑問があったらとことん調べる粘着性が翻訳者としての利点となる。そして何よりも、専門性という高いハードルを乗り越えるためには、人々の健康と幸せに貢献できることに誇りと喜びを感じられるかどうかが重要である。

最後に、「不況だからこそ、翻訳会社同士がお互いに協力し合い、翻訳のパイを広げる努力をしていきたい。目指したいのは目先の利益ではなく、翻訳業界全体の健康と幸せである」と村田氏は講演を締めくくった。

報告：早舩 由紀見（個人翻訳者）

New Standards in Translation

募集中！

コーディネータ、校正スタッフ、
派遣スタッフなど、多くの人材を
各拠点で募集しております！

言 語 英語・中国語・ドイツ語・フランス語・スペイン語・イタリア語・ロシア語
韓国語 等（その他言語も募集中）

分 野 特許・工業・医薬・金融

内 容 翻訳者・校正者・メディカルライター・通訳者・ワープロ外注
テープライター 等

応募方法 下記ウェブサイトからご応募下さい

株式会社 翻訳センター 大証ヘラクレス 証券コード:2483

大 阪 大阪市中央区平野町2丁目5番8号 平野町センチュリービル9階
TEL:06-6204-1640 E-Mail:info@honyakuctr.co.jp

東 京 東京都港区東新橋2丁目4番1号 サンマリーノ汐留8階
TEL:03-6403-9965 E-Mail:freelance@honyakuctr.co.jp

名古屋 名古屋市中村区名駅3丁目16番4号 太陽生命名駅ビル5階
TEL:052-571-2101 E-Mail:nagoya@honyakuctr.co.jp

募集要項・会社概要等、詳しくはウェブサイトをご覧下さい http://www.honyakuctr.com/freelance_b.html

西日本セミナー報告

****
平成 21 年度第 3 回 JTF 西日本セミナー
平成 21 年 12 月 4 日（金）14:00 ～ 18:00
【開催場所】三井ガーデンホテル大阪淀屋橋　ガーデンホール会議室
【テーマ】「翻訳力」ステップアップⅢ～技術・実務翻訳者 井口耕二さんに訳文チェックしてもらおう♪～
【講師】井口 耕二氏（技術・実務翻訳者、JTF 常務理事）
****

私にとって同セミナーは、昨年度に続き 2 度目の参加となる。比較的一般的な内容の文書が 2 題という構成だった昨年とは対照的に、今回は高性能ビデオカードのプレスリリースという、やや専門性の高いドキュメントが 1 題（2 段落）という構成。私自身も IT 分野を手がけているため、今回は、自身が比較的得意とする分野の文書を訳すにあたっての心構えや思考プロセスに、井口先生との違いはあるのか、あるいは自分に何が足りないのか、といった点を探るべく、大阪の会場へと向かった。

受け付け後、座席で目にしたのは、昨年と同じく、課題提出者全員の訳文と先生自身の訳文、そして実際にメーカー Web ページに掲載された訳文の計 11 通が列記された小冊子。昨年よりも訳文が少ないのは、「パソコンに増設するビデオカード」というある意味マニアックなトピックであるためだろうと思いながら、それぞれの訳文を流し読みしてみる。やはり、この分野に精通した方が多いようで、語彙や言い回しの妥当性が高く、総じて高水準であると感じられる。

セミナーは、「テキストファイルをメールに添付して提出」という指示が遵守されていなかった事例を引き合いに、不明点は調べるか尋ねるなどして解消することが第一歩、翻訳作業の半分は調査であるという指摘で幕を開ける。その後、常用漢字の判別機能を備えた日本語入力システムの紹介、漢字とひらがなの最適なバランスを普段の読書から意識していくことの重要性などに触れ、課題文の解説へと移っていく。

解説の冒頭で、先生の口から、「原文は親切に読む。訳文は意地悪に読む」というフレーズが飛び出す。そして実際に「訳文を意地悪に読む」ことによって個々の答案から問題があぶり出されていく。課題文の一部だけを切り出すのは危険ではあるが、敢えて具体例を出したい。

原文：at high-definition resolutions such as 1900 x 1200 and above
訳文 A: 1900x1200 以上などの高解像度で
→「1900x1200 以上」という表現が、この文脈における高解像度の範囲をほぼ網羅しているため、具体例の 1 つであることを示す「... など」とは共起し得ない。

原文：a lot of the installed hardware
訳文 B: 多くのインストール済みハードウェア
→この文脈における the installed hardware は、PC ゲーマーが現在保有しているビデオカードを表しているのに対し、現状の訳では意味範囲が漠然としていて情報が正しく伝わらない危険性がある。

原文：within the reach and budget of PC gamers less than $199
訳文 C: PC ゲーマーにとって手の届く範囲内の 199 ドル未満で
→直前の文で、一部のユーザーは 400 ドル以上のビデオカードをこれまで買っていたことが示唆されている。199 ドル未満でなければ手が届かないとは必ずしも言い切れないのではないか。

原文：high-quality playback of HD DVD and Blu-ray movies
訳文 D: HD DVD やブルーレイ動画の高画質再生
→ DVD の規格である HD DVD と Blu-ray の並列であり、「HD DVD やブルーレイの動画」とした方がその関係が明確に伝わる。

このように、正しく「も」伝わる表現ではなく、正しく「のみ」伝わる表現を生成することの重要性と、そのための読み方が具体的に示された。

前半の解説に時間がかかり、後半はやや小走りになってしまったものの、動作の主体を意識して動詞と明瞭に対応付けることへの意識や、和文で無生物を主語にした場合に生まれる微妙な違和感を避けるために、敢えて主語を変える処理など、先生の思考プロセスの一端を垣間見ることができた。

最後に、参加者からの質問を受け、「... 以下」と「... 未満」の訳し分け方や、名詞句がコンマや and/or で 2 つ、3 つと並列されている場合の訳出処理方法、さらには日本語と英語の時制感覚の違いとその対処方法などに関する先生ご自身の意見が紹介されてセミナーは終了。15 分間の休憩を挟んで、井口先生を交えた交流会へと移った。

交流会では、駆け出しの方や、同じ分野の翻訳者の方とそれぞれの悩みを打ち明けたりして日ごろのストレスを発散するとともに、以前から井口先生にお訊きしたかった「高価格翻訳者への道程と戦略」を直接伺うことができ、大いに参考になった。

実は私は、今回のセミナー課題を提出するに当たり、翻訳時に判断に迷った点や訳文作成時の思考プロセスを訳文ファイルに追記し、先生にぶつけてみた。セミナーの中で、先生はこれらのコメントに対して真摯にご自身の考えを披露してくださり、私は大変恐縮するとともに、その懐の深さもまた、先生の現在の立場に大きく寄与しているのであろうと感心せずにはいられなかった。私自身も翻訳経験が 10 年を超え、ベテランの域に入ろうとしているが、この点も大いに見習い、今後も各種セミナーに参加して多様な考え方に触れようと思いを新たにして家路についた。

報告者：中村泰洋（個人翻訳者）

****
平成 21 年度第 4 回 JTF 西日本セミナー
平成 22 年 1 月 22 日（金）14:00 ～ 17:00
【開催場所】大学コンソーシアム大阪・キャンパスポート大阪 A
【テーマ】特許翻訳の現場から
【講師】倉増 一氏（青山学院大学情報工学科講師、株式会社トランスプライム 代表取締役）
****

『特許翻訳の基礎と応用』著者の倉増先生から直接聴くことが出来る関西で初めての機会となった。事前の実務直結「翻訳課題」（日英課題 1 ～ 10、英日課題 1 ～ 4）を基に、質問も適宜活発で、「翻訳解答例と解説」も大きな収穫です。

内容は、特許明細書の役割、特許翻訳の 5C とは、読みやすい英文作成のために、因果関係の論理的表現などで、著書を補い、名実共に大変な盛況でした。

●特許明細書の役割：特許英語における 5C とは

明細書等が法律文書であると共に技術文書である点、日本や米国の特許法（特 36 条、USC35 § 112）にあるとおり、まず 3C「Be Correct, Clear and Concise（内容が正確、文意が明確、かつ文章が簡潔）」であること。加えて、2C「Consistent（明細書全体に一貫性）、Compliant（法律に適合）」が求められる。「翻訳に際して、技術的に正確かつ読む人すべてに（当業者だけでなく技術に疎い法律家などにも）分かるように翻訳すること。」骨となる文を大切にし、主語と述語を前に出し、内容が正確な上に文意が明確かつ文章が簡潔な訳文をと心がけること。発明者の意図が何なのかを追求し、最終的に発明者の意図を満たさなければだめである。「これら 3C を読むだけではなく、実行していただきたい！」との言葉に熱意を感じた。

●3C（内容が正確、文意が明確、かつ文章が簡潔）の実践

日英課題 2：「図を参照して次の日本語を英訳してください。（3C を念頭に）

第 1 の接続導体 14 は、側面 4 において第 1 及び第 2 の端子電極 10、12 の間に配置され、側面 5、6 が対向する方向に伸びている。」

側面 1 ～ 6 を有する直方体（素体 E1）上の配線（14）が主題です。「よくある訳例」は

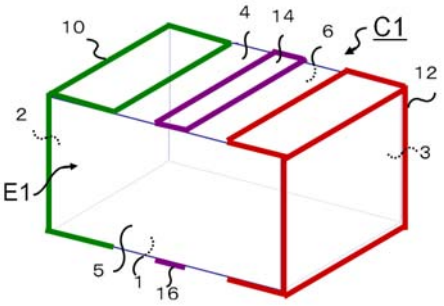
The first connection conductor 14 is disposed between a first terminal electrode 10 and a second terminal electrode 12 on a side face 4 and extends in the direction in which side faces 5 and 6 face each other. (39 words)

明細書中実施形態での「において」には苦慮するが、ここは前置詞 on でよい。考慮点として、①「配置され」と「伸びている」の 2 つの動詞を集約できないか、②「側面 4 において」は全体にかかっているので誤訳の原因になりやすく要注意（係り受けミスは、両言語構造の違いを常に意識し、早く他の方の指摘も受けて撲滅すること）、特に③「対向する方向に」を他の適切な表現に変えることです。実は「対向する」を「互いに向きあうこと opposing/facing each other」以外で、ある方向「一方の面から他方の面」を意図されているケースに初めて遭遇でした。「改善訳」は

The first connection conductor 14 extends from a side face 5 to a side face 6 between a first terminal electrode 10 and a second terminal electrode 12 on a side face 4. (33 words)

●読みやすい英文作成のために：戦術よりも戦略を優先する

大局的な「戦略」を個々の「戦術」よりも優先することを強調された。「戦略」とは、①主語（と動詞）を決めること（文の中で一番大事な情報、既出の情報、前文との繋がりが保てる名詞）、②主語の近くに動詞を置く（It is 構文では：It is known that an array includes 、倒置文では：An array is known that includes ）、



③付帯事項はあとで説明する、が要旨です。「戦術」は、①クレームでは関係代名詞の非制限用法（ , which）は論理的におかしい、②限定的動詞（例 consist of）の適否を熟慮し、③単数と複数の問題に配慮する、などです。長文よりも単文で歯切れ良く、意味内容（イメージ）が両言語で “同じ” になるように簡潔に再現すること。

●作用効果など因果関係の論理的表現に留意する

日英課題 9：「『風が吹けば桶屋が儲かる』を、技術英語のセンスで翻訳してください。対応する通常の英訳は After wind's blowing, basinsmiths get money 」

これは『ウィキペディア』に由来や考察がある例です。「日本語明細書は作用効果の記載に力点が置かれている」との指摘があった。論理展開、特に「因果関係」表現を大切にとの主旨です。確かに「どんな風か」は深く考えるべきだ。訳例は、①無生物主語を活用された、②直接的な表現で、③動詞「儲かる」を名詞「儲け」に品詞転換され Strong wind results in basinsmiths' profit です。誤訳かの判断は「訳文だけで文脈から見抜くこと。論理的に読み、原文に戻れば分かるはず。」

報告者：比舎 博（JTF 個人会員）

法人会員プロフィール

株式会社テックコミュニケーションズ

〒615-0864
京都市右京区西京極新明町 13-1
TEL: 075-325-6221（代表）
075-325-6239（翻訳部門直通）
FAX: 075-325-6243
Email: trg-info@k-tecs.co.jp
（翻訳部門専用）
URL: www.k-tecs.co.jp

■作る心と使う心をつなぎ続けたい。

テックコミュニケーションズは、大日本スクリーン製造株式会社の 100％子会社として 1993 年 7 月に設立。以来、「作る心と使う心をつなぎ続けたい。」をキャッチフレーズに、マニュアルや販売促進ツールの制作から、編集、翻訳、Web デザイン、印刷まで、お客さまのあらゆるご要望にお応えするトータルプロダクションとして、発展を続けています。

設立当初から翻訳部門を設け、大日本スクリーングループのマニュアルや技術文書の翻訳を手掛ける一方、現在では、産業機器や民生機器の各種マニュアルに加え、カタログをはじめとする販売促進ツールなど、一般のお客さまからのあらゆる分野の翻訳にも幅広く対応しています。

■スペシャリスト集団ならではの高い翻訳品質を実現

大日本スクリーン製造株式会社のグループ企業として培った、半導体、フラットパネルディスプレー、印刷関連などの業界に関する専門知識を最大限に生かし、ご要望に応じた的確な翻訳を実現しています。さらに、これらの得意分野に加え、さまざまな業界に幅広く精通することを目指しています。

当社のコーディネーターの多くは翻訳者としてのスキルを備えているため、その豊富な経験により、きめ細やかな「かゆいところに手が届く」サービスが可能です。また、世界中の約 60 言語をカバーするなど、さまざまなローカライズのニーズにも柔軟に対応。日本語にありがちなあいまいさが排除された、明確な翻訳文章を提供しています。さらに、大日本スクリーングループの海外ネットワークを活用し、品質のさらなる向上を図っています。

■お客さまに安心を提供

翻訳対象物の分野や内容に応じて、豊富な知識と経験を持つ最適な翻訳者をセレクトしています。そして、社外のネイティブ翻訳者やパートナー企業との連携を強化するため、お客さまからのご要望やご指摘をフィードバックして共有するなど、共に成長できる体制を整えています。

また、用語の統一や整合性の取れた翻訳を継続的に実現できる仕組みを整えるとともに、翻訳時に気付いた点などを納品時にコメントとしてお伝えするなど、お客さまに安心を提供しています。

さらに当社では、初めて翻訳をご依頼いただくお客さま向けに無料翻訳トライアルを用意し、当社 Web サイトから受け付けています。さまざまな不安を解消し、安心してご依頼いただくためにも、ぜひご利用ください。

■セールスプロモーションツールなどの多言語化にも対応

ネイティブのコピーライターが、カタログ、会社案内、Web サイト、商品パッケージなど、あらゆるコンテンツの目的に合わせたコピーを創出。このほか、製品紹介や会社紹介のビデオナレーション、テロップなどの翻訳にも対応します。

このように当社は、ドキュメントの枠を超え、そして言葉や文化の壁を超え、セールスプロモーションや企業広報の分野でも多くの実績を挙げています。

■コストパフォーマンスを高めるツールを開発・導入

翻訳支援システム「TRADOS®」の活用はもちろんのこと、「多言語ドキュメント制作合理化ソリューション」として、「Adobe® InDesign®」に XML を組み合わせることにより、ベース言語となる英文ドキュメントから、極めて効率良く、信頼性の高い多言語ドキュメントをアウトプットする仕組みを開発し、導入。多言語展開における作業を大幅に軽減しました。さらに、この取り組みを「テクニカルコミュニケーションシンポジウム 2009」（一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会主催）で発表するなど、新たな挑戦を続けています。

当社は今後も、翻訳に愛着と情熱を持ち続け、お客さまとパートナー企業の双方に満足を提供し、翻訳を担う会社としてさらなる発展を目指します。

作る心と使う心をつなぎ続きたい。

情報をコミュニケートするエキスパート。
それが、テックコミュニケーションズです。

テックコミュニケーションズは、「もの」と「ひと」との確かなつながりを目指し、常に高い評価を頂けるよう、皆さまのニーズにお応えするさまざまな価値あるサービスを提供していきます。

TeCS
http://www.k-tecs.co.jp
● マニュアル ● 広告宣伝 ● イベント ● 翻訳 ● 編集 ● Web ● 印刷
株式会社 テックコミュニケーションズ
〒615-0864 京都市右京区西京極新明町13-1
TEL：075-325-6221 FAX：075-325-6243